

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会 2021年度事業報告書

I 活動報告

2021年度（2021年4月1日～2022年3月31日）は、当協会にとって公益社団法人としての第9期となり、定款・規程・規則に則った協会運営を進めた。

2020年2月に始まった、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の収束が見えず、昨年引き続き、多くの活動が制限を受けることとなった。しかし昨年のような全ての世代で活動停止するような状況では無く、感染症と向き合いながら少しずつ日常の活動に近づけていくといった一年となった。

それでも、講習会、クリニック、フットボール教室等、選手・指導者が集合する行事はほとんどが中止され、開催が予定されていた国際大会、国際強化プログラムも一部を除き中止となった。国際会議については中止となる会議もある中、オンラインで開催された会議もあった。

このような状況下で、各加盟団体では活動の制限は受けたものの、各地域で公式戦を行い、社会人、大学、高校、中学ともそれぞれシーズンを終えることが出来、各世代で日本選手権が開催された。

また、唯一開催された国際大会「フラッグフットボール世界選手権2021」で女子日本代表が6位入賞を果たし、2022年7月にアメリカ合衆国で開催される「ワールドゲームズ2022」への出場権を獲得した。

1) 日本スポーツ協会公認指導者養成事業

定款第5条第1項第1号に関連する事業として、公益財団法人日本スポーツ協会が主催する公認指導者養成事業の一つとして、日本スポーツ協会（JSPO）からの委託に基づいてアメリカンフットボール競技に関するコーチ資格の専門科目講習会を開催した。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から開催回数を減らし、4日間の講習プログラムを1回ずつ開催した。全てオンライン形式で開催した。

- ・ 8月1日（日） 【第1日】 日本協会会議室
- ・ 1月15日（土） 【第2日】 追手門学院大学
- ・ 1月16日（日） 【第3日】 追手門学院大学
- ・ 1月22日（土） 【第4日】 日本協会会議室

2) コーチクリニック、フットボール教室

定款第5条第1項第1号に関連する事業として、日本スポーツ振興センターくじ助成プログラム（スポーツ活動推進事業）の助成を得て、「JFAフットボールアカデミーキャンプ」実施を下

記の通り計画した。

「JAF A フットボールアカデミーキャンプ」は重大事故の未然防止等、選手の安全を守る観点から、ユースならびに高校生、あるいは大学入学後に初めてフットボールを始める選手たちを対象にした研修を行う。公認指導者養成講座専門課程のテキストである「ショルダータックリング」ならびに「ヘッズアップ・ブロッキング」を活用した座学および実技指導を行っている。

加盟団体からの要請に基づき下記日程にて「JAF A フットボールアカデミーキャンプ」(HUF クリニック)を開催予定としていたがコロナ感染拡大予防の観点から概ね開催を見送る形となった。

【開催されたクリニック】

- ・ 2021年6月20日(日):ヘッズアップアカデミー (東北学生連盟)

【延期されたクリニック】

- ・ 2022年3月:ヘッズアップアカデミー (東海学生連盟) (6月開催で調整中)

【中止されたクリニック】

- ・ 2021年5月:フレッシュマンクリニック (関西学生連盟)
- ・ 2022年3月:ヘッズアップアカデミー (北陸学生連盟)
- ・ 2022年3月:ヘッズアップアカデミー (中四国学生連盟)

3) 川崎市まちづくり推進連絡調整会議参加、ならびにアメリカンフットボールの普及活動

定款第5条第1項第1号及び第11号に関連する事業として、川崎市のまちづくり推進連絡調整会議に参加し、アメリカンフットボールを活用した川崎市のまちづくりと、川崎市におけるアメリカンフットボールの普及発展に努めた。

2007年、川崎市と本法人との間で「アメリカンフットボールを活用した川崎市のまちづくり」に関する包括協定を締結し、川崎市主導の「まちづくり推進委員会」に参加してきたが、2015年3月に富士通スタジアム川崎が完成したことから、川崎市関連団体、川崎市市民団体、アメリカンフットボール競技団体が一体となって、2016年2月、川崎市の協力を得て、富士通スタジアム川崎を活用したまちづくりを推進するために、「アメリカンフットボールを活用したまちづくり推進連絡調整会議(議長:間野義之早稲田大学スポーツ科学学術院教授)」を発足した。

ただし2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、入場者数制限下において、感染予防策を講じたうえでの試合開催となったため、来場者を増やす活動は、大きく制限された。一方で、オンラインを活用しての観戦講座等のイベント開催、ならびに試合ライブ配信を活発に推進した。

4) 国際競技力向上に向けた事業

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、各世代の有力選手を集め、技術力向上を目指しクリニックを開催する事業。その中から、それぞれの世代で選手を選抜し、国際大会へ向けた

チーム作りに取り組む計画をしていた。

インターナショナルボウル2022、およびカンクンボウル2022は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、大会が中止となり、選抜、練習、および遠征が中止となったが、フラッグフットボール日本代表選抜および全国合同練習は予定通り開催された。

① インターナショナルボウル2022（18歳以下の世代）【中止】

インターナショナルボウル キャンプを開催し、日本代表候補選手を選出する。その代表候補選手がアメリカテキサス州へ遠征し同年代のアメリカ選抜チームと試合を行うというプログラム。

[予定されていたキャンプ]

- ・2021年 7月：インターナショナルボウル キャンプ（関東地区）
- ・2021年 7月：インターナショナルボウル キャンプ（関西地区）
- ・2021年11月：インターナショナルボウル キャンプ（関西地区）
- ・2021年11月：インターナショナルボウル キャンプ（関東地区）

[予定されていたアメリカ遠征]

- ・2022年1月中旬：・インターナショナルボウル2022アメリカ遠征

② カンクンボウル2022（フラッグフットボール男子17歳以下）【中止】

[予定されていた取り組み]

- ・2022年 1月22日～23日：カンクンボウルU17日本選抜強化練習（関東地区）
- ・2022年 2月19日～20日：カンクンボウルU17日本選抜強化練習（関東地区）
- ・2022年 3月19日～20日：カンクンボウルU17日本選抜強化練習（関東地区）
- ・2022年 3月下旬：メキシコ遠征

③ フラッグフットボール日本代表選抜および全国合同練習【開催】

2021年12月にイスラエル、エルサレム市で開催された「第10回フラッグフットボール世界選手権」に参加する日本代表の候補選手選抜、および全国合同練習を実施し、フラッグフットボールの国際競技力の向上を図った。

- ・2021年 4月10・11日、24・25日：男女代表候補、全国合同練習（関東地区）
- ・2021年 5月 8・ 9日、23・24日：男女代表候補、全国合同練習（関東地区）
- ・2021年 6月19・20日：男女代表候補、全国合同練習（関東地区）
- ・2021年 7月24・25日：男女代表候補、全国合同練習（関東地区）
- ・2021年 8月14・15日：男女代表候補、全国合同練習（関東地区）
- ・2021年 9月11・12日：男女代表候補、全国合同練習（関東地区）
- ・2021年10月23・24日：男女代表、全国合同練習（関東地区）
- ・2021年11月27・28日：男女代表、全国合同練習（関東地区）
- ・2022年 2月26・27日：女子代表候補、全国合同練習（関東地区）
- ・2022年 3月 5・ 6日、12・13日：女子代表候補、全国合同練習（関東地区）

④ その他

日本代表選手及び、海外プロリーグに到達可能性のある選手の発掘及び育成に向けた環境整備に関わる調査の実施、及びその分析を通じた知見の獲得を目的として筑波大学の松尾博一助教から学術指導を受ける契約を締結した。この学術指導に基づいて Long Term Athlete Development (”LTAD”=「長期的なアスリート育成」) プログラムの作成、クロスオーバーアスリートコンバインの実施について具体的な準備を開始した。

5) アメリカンフットボール日本選手権「ライスボウル」の開催

定款第5条第1項第3号に関連する事業として、アメリカンフットボール日本選手権「第75回ライスボウル」を主催した。

昨年度まで続けられてきた学生対社会人の対戦は、今年度より社会人同士の対戦と変更になった。対戦フォーマットの変更により、社会人同士の決勝となったライスボウルは、ファンが求めている緊迫感、試合の質の高さを十二分に見せてくれた試合内容となった。結果は富士通がパナソニックを24対18で退け、2年ぶり6度目の日本一を勝ち取った。

東京都新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を整え、観客数の制限は受けなかったが、感染拡大の影響は払拭できず、来場者は14,610名に留まった。

定款第5条第1項第3号に関連する事業として3月20日、「2021年度フラッグフットボール日本選手権」を主催した。

シニア（男子16歳以上）では関西地区代表、北大阪ハスキーズが38対34で関東地区代表リバーサイドガンブラーズ市川を下し優勝。レディース（女子16歳以上）は関東地区代表ヒューペリオン東京が関西地区代表アイリスを32対6で破り優勝。それぞれ日本一に輝いた。

6) 高校アメリカンフットボール連盟及びユース・フットボール競技総括団体の主催試合等の後援・助成

定款第5条第1項第3号に関連する事業として、以下の大会を後援した。

- ・ 2021年度高等学校日本選手権大会決勝戦、(第52回クリスマスボウル)
2021年12月26日(日) 於) 横浜スタジアム
- ・ 第8回日本中学生アメリカンフットボール選手権
2022年1月10日(月・祝) 於) 富士通スタジアム川崎

他にも以下の大会の後援を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、大会は中止となった。

[後援を予定していた大会]

- ・東西地区選抜高等学校アメリカンフットボール対抗戦（第10回ニューイヤーボウル）
2022年1月

7) 国際試合の主催・後援

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、東日本大震災の後、米軍が OPERATION TOMODACHI（ともだち作戦）と称して東北に物資の補給などの支援活動を展開したことをきっかけとして、一般社団法人関東学生アメリカンフットボール連盟が主催した下記「第9回 TOMODACHI BOWL」の後援を予定していた。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点からこの試合は中止となった。

[後援を予定していた事業]

- ・第9回 TOMODACHI BOWL
(米軍基地高校、アメリカンスクール選抜チーム 対 U-19 関東・東北選抜チーム)
試合日程：2022年3月
試合会場：米軍厚木基地 リードメモリアルスタジアム
対 戦：Team USA（米軍基地高校、アメリカンスクール選抜チーム）
Team Rising Sun（U-19 関東・東北選抜チーム）

8) 国際試合へのチーム派遣

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、下記の国際試合に日本代表チームを派遣した。

大会名：IFAF フラッグフットボール世界選手権2021
主 催：国際アメリカンフットボール連盟（IFAF）
日 程：2021年12月6日～8日（遠征日程12月3日～10日）
開催地：イスラエル エルサレム市 クラフトファミリー・スポーツキャンパス
出場国：23カ国、男子21カ国、女子18カ国

日本代表チームとして男女各15名を選出、世界選手権に挑んだ。大会結果は男子11位、女子6位という成績であった。この結果により女子は2022年7月アメリカ合衆国アラバマ州で開催される「ワールドゲームズ2022バーミンガム大会」の出場権を獲得した。

この大会では、国際総合競技大会として初めてフラッグフットボールが採用され、日本代表の活躍が期待されている。

9) 国際試合への審判員の派遣

定款第5条第1項第4号に関連する事業として2021年12月にイスラエルで開催された「IFAF フラッグフットボール世界選手権2021」に審判員2名を派遣した。

経験豊富な2名の審判員は、同大会で高い評価を得た。

10) 競技規則の制定・告知・頒布

定款第5条第1項第5号に関連する事業として、競技規則委員会(2021年3月27日開催、一部の競技規則委員はリモートで会議に参加)の決定に基づき、アメリカンフットボール競技の2021年度公式規則を以下のとおり加盟団体に周知した。

- ・2021年4月2日、「2021年度・公式規則変更予定報」として変更内容の概要を告知
- ・2021年7月7日、「2021年度・公式規則変更内容・決定報」として2020年度公式規則からの変更内容、関係する条文の変更および追記内容を告知

11) 安全対策全国会議および医・科学研究会

① 安全対策全国会議

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、2022年2月19日(土)全国の加盟団体安全対策担当者の参加を得て、オンライン形式で第29回Jafa安全対策全国会議を開催した。

各団体の1年間の安全対策活動と重大事故、試合時の外傷の報告があり、コロナ禍での練習不足等による外傷の特徴および予防対策が協議された。

② アメリカンフットボール医・科学研究会

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、2022年2月20日(日)「第24回日本アメリカンフットボール医・科学研究会」を会場(神戸大学内講堂)とオンラインのハイブリッド形式で開催した。新型コロナに対する現場の対応、頭部外傷、現場での救急搬送等に関して、講演(討議)が行われた。

講師、関係者を含め233名の参加があった。

③ 新型コロナ感染症に対する注意喚起

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、コロナ禍における各チームの活動に関してJafaのホームページにて、下記の注意喚起を掲載した。

- ・2021年8月23日：2021年秋シーズンの感染対策について
- ・2022年1月31日：2022年活動開始にあたっての注意点
- ・2022年3月7日：新年度の活動開始にあたっての注意点

・2022年3月21日：「まん延防止等重点措置」解除における活動の注意点

1 2) ドーピング検査

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、甲子園ボウル、ライスボウルにおいてドーピング検査を実施した。ドーピング検査は、専門機関である日本アンチ・ドーピング機構（JADA）が行った。検査の結果陽性例はなかった。

1 3) アンチ・ドーピング講習会

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、2021年11月1日（月）オンライン形式でアンチ・ドーピング講習会を開催した。多くの指導者、選手はアンチ・ドーピングの趣旨は理解しているものの、禁止薬物に関する知識、持病等で処方を受けている薬物の事前申請（TUE）、居場所情報提出などの手続きなどについて十分な知識を有しているとは言い難く、啓発活動の一環として講習会を開催した。

1 4) 受講者推薦（日本スポーツ協会公認スポーツドクター、及びアスレティックトレーナー養成講座）

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、日本スポーツ協会が主催するスポーツドクター養成講座及びアスレティックトレーナー養成講座の受講生を推薦した。

推薦にあたっては、安全対策委員会（8月より安全対策委員会は、アンチ・ドーピング委員会と医・科学委員会に分かれ、この事業は医・科学委員会が継承）が、受講希望者の中から日本スポーツ協会の受講者選考基準をもとに適格者を選考した。

1 5) アメリカンフットボールに適した競技場の設置促進

定款第5条第1項第7号に関連する事業として、各地の自治体等が球技場を設置する情報収集を心掛けている。2021年度においてはアメリカンフットボール準専用スタジアム、富士通スタジアム川崎の照明設備更新について意見交換を行った。

1 6) CFO 会議への競技規則委員派遣・参加

定款第5条第1項第5号に関連する事業として、全米大学体育協会（NCAA National Collegiate Athletic Association）の公式規則変更、公式規則適用の状況を正確にかつ迅速に把握するために、以下のとおり関係者が参加した。

・（米国）大学フットボール審判協会（CFO, College Football Officiating LLC）が主催するフットボール・コーディネーター・ミーティング（2022年1月25日・26日、ダラスでの集

会形式とリモート会議を併用にて開催)に、競技規則委員会の委員長、副委員長および委員1名がそれぞれ自宅よりリモート参加した。

- ・(米国) 大学フットボール審判協会 (CFO College Football Officiating LLC) が主催するナショナル・インスタントリプレー・クリニック (2021年5月18日・19日リモート会議にて開催) に競技規則委員会の副委員長、委員1名および関東審判部のインスタントリプレー担当者がそれぞれ自宅よりリモート参加した。

- ・(米国) 大学フットボール審判協会 (CFO College Football Officiating LLC) が主催するナショナル・レフリー・カンファレンス (2021年6月14日から16日リモート会議にて開催) に競技規則委員会の編集部員5名および関東審判部の部員1名がそれぞれ自宅よりリモート参加した。

17) WEBサイトによる情報発信

定款第5条第1項第9号に関連する事業として、JAF A 専用の WEB サイトを活用して、国内外の競技情報、JAF A が主催する日本選手権ライスボウルの情報、試合結果、JAF A の各委員会の活動に関する情報を発信した。

- ・12月に開催された「IFAF フラッグフットボール世界選手権2021」の日本代表の活躍、現地レポート、試合結果等を発信した。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に対応し、「JAF A アメリカンフットボール活動の注意点」を適時更新し発信した。
- ・2021年度競技規則の予定報、決定報の全文を WEB サイトに掲載した。

18) 殿堂顕彰

定款第5条第1項第10号に関連する事業として、日本アメリカンフットボールの殿堂にて第5回までの殿堂顕彰者を紹介するための紹介ページを作成し、日本アメリカンフットボール協会ホームページ内「殿堂・歴史」ページに掲載した。

また、2022年3月、「戦前のアメリカンフットボールの記録」および「アメリカンフットボール88年の活動の記録」を作成し同ホームページに掲載した。

新しい活動として、殿堂顕彰者の方々と日本協会のパイプ継続のために、ライスボウルのプログラムを顕彰者、ご遺族、関係者に発送をすると同時に、プログラムに顕彰者の皆様の紹介が載っていることも案内した。今後は毎年プログラムを送ることにより、連絡先を組織的にきちんと把握しておくこととした。

19) 関係団体・機関との情報交換・連携

定款第5条第1項第11号に関連する事業として、国際アメリカンフットボール連盟 (IFAF)、公益財団法人日本スポーツ協会 (JSPO)、公益財団法人日本オリンピック委員会 (JOC)、独立行

政法人日本スポーツ振興センター（JSC）、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）、公益財団法人日本スポーツ仲裁機構（JSAA）、一般社団法人日本トップリーグ連携機構（JTL）一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）、公益財団法人日本フットボール協会（JFFO）、NPO 法人日本ワールドゲームズ協会など関係団体・機関と密に情報交換を行い、連携して活動した。

(1) 国際アメリカンフットボール連盟（IFAF）

2021年度、IFAFは競技の普及やIOC承認国際競技団体連合入りに向け、国際競技連盟としての取り組みを強化していくこととなった。2021年8月、IFAFは新しいロゴを発表し、ウェブサイトを一刷新した。そしてIFAFは「試合の不正操作防止に関する規程」を制定し、12月、加盟各国はこの規程を採択した。

また新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大のため、2021年に延期されていた役員改選を12月に行い6名の理事が改選された。会長はピエール・トロシェ氏（新任：フランス）に交代し、日本からは奥亮（こしまこと：JAF A 常務理事）が普及担当理事に選任された。

国際大会では、高校生へ向けた強化プログラム、インターナショナルボウルは中止されたが、2020年から延期されていたフットボール世界選手権は、12月イスラエルで開催された。また、2023年シニア世界選手権がドイツで開催されることが決定した。

(2) 公益財団法人日本スポーツ協会（JSPO）

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格のうち、アメリカンフットボール指導員資格の認定業務を共同で実施するとともに、有資格者の義務研修を実施して資格保有者の資格更新を促した。

スポーツドクター、ならびにアスレティックトレーナーの養成講座の受講生候補者については、公募のうえ選出して推薦した。

(3) 公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）

日本オリンピック委員会が主催する数多くのプロジェクトならびに会合には、業務執行理事が中心となって対応した。日本オリンピック委員会が主催する「国際人養成アカデミー」には深堀理事、平澤委員が受講、修了した。日本オリンピック委員会からのアンケート調査等に協力し回答した。

(4) 独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）

スポーツ振興センターの助成金事業に応募し、くじ助成事業として「ドーピング検査事業」、「ガバナンス強化事業」、「JAF A フットボールアカデミー事業」、基金助成事業として「フットボール世界選手権チーム派遣」を行った。

くじ助成金事業として申請していた「タレント発掘事業」は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で事業が中止された。

(5) 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 (JADA)

ふたつのボウルゲーム (甲子園ボウル、ライスボウル) でのドーピング検査を、日本アンチ・ドーピング機構の協力を得て実施した。

(6) スポーツ庁

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策において、日々刻々と状況が変わる中、様々な情報提供を受け、協会活動の意思決定の情報とするとともに、傘下の団体とも情報共有を図った。

また、日本選手権「ライスボウル」の後援をいただいた。

(7) 一般社団法人日本トップリーグ連携機構 (JTL)

エックス・リーグ (社会人アメリカンフットボール協会) が加盟する日本トップリーグ連携機構の理事として深堀理事が参加し、日本トップリーグ連携機構メンバーのエックス・リーグとともに NF (統括団体) の立場から日本における球技スポーツ競技の発展に係る事業に協力した。

(8) 一般社団法人大学スポーツ協会 (UNIVAS)

大学スポーツ協会理事として国吉会長が参加し、競技団体の立場から、大学スポーツの発展に係る事業に協力した。今年度は競技団体として、UNIVAS CUP への参加をし、医療従事者支援制度を活用した。協会サイトでの動画配信事業など、様々な取り組みにより競技の普及活動に協力いただいた。また、昨年引き続き新型コロナウイルス感染症対策として「UNIVAS 大学スポーツ活動再開ガイドライン」などの提供を頂き、競技運営の参考とした。

(9) 公益財団法人日本フラグフットボール協会 (JFFO)

フラグフットボールの国内での普及事業を進めてきている日本フラグフットボール協会と連携し、2028年のロス五輪の追加種目をにらみ、競技力向上のため協働でプロジェクトを立ち上げた。国内の競技大会においては両協会での共催を始めた。

以上

Ⅱ 内部統制体制の整備についての決定および運用状況の概要

1. 現状整備されている内部統制関連規程

- 1) 理事会運営規程
- 2) 旅費規程
- 3) 役員等の費用弁償規程
- 4) 役員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- 5) 謝金規程
- 6) 倫理懲罰規程
- 7) 内部通報規程
- 8) 殿堂顕彰規程
- 9) 寄附金等取扱規程
- 10) 会計規程
- 11) アンチ・ドーピング規程
- 12) 個人番号及び個人情報の保護に関する基本方針
- 13) 個人情報及び個人情報の保護に関する基本規程
- 14) 管理運営基金取扱規程
- 15) 日本代表チーム編成規程
- 16) 加盟団体に関する規程
- 17) 保有株式取扱規程
- 18) 印章管理規程
- 19) 理事等の職務権限規程
- 20) 理事会提出役員選任議案作成に関する基準
- 21) 就業規則
- 22) 委員会規程
- 23) 法人カード利用規程

2. 2021年度、内部統制関連規程の改定等

- 1) 倫理懲罰規程（改定）
2021年度第4回理事会（2021年11月21日）
- 2) 加盟団体に関する規程（改定）
2021年度第4回理事会（2021年11月21日）
- 3) 寄附金等取扱規程（改定）
2021年度第4回理事会（2021年11月21日）
- 4) 入会及び大会に関する規程（改定）
2021年度第4回理事会（2021年11月21日）
- 5) アンチ・ドーピング規程（改定）
2021年度第6回理事会（2022年3月13日）

6) 旅費規程 (改定)

2021年度第6回理事会 (2022年3月13日)

3. 内部通報関連

2021年度通報 1件

2021年度解決 0件

重要な事項は、すべて事業報告に記載した。

以上